

- 旧赤松家記念館 回顧展  
『赤松登志子と子どもたち』 P1～2
- 文化財を守る 文化財防火デーin 旧見付学校 P3
- 旧見付学校 展示情報 P4
- コラム『学校給食のはじまり』相浦正裕 P4

旧赤松家記念館 回顧展

# 赤松登志子と子どもたち

## ～赤松家にとっての長女・登志子～

日時:開催中 ～3月30日(日)まで 9:00～16:30



展示室風景

休館日:2/3(月)、10(月)、12(水)、17(月)、25(火)  
3/3(月)、10(月)、17(月)、21(金)、24(月)

場所:旧赤松家記念館 米蔵 (見付3884-10)

本年は赤松家長女・登志子の没後 125 年に当たります。これを契機として、昨年の『森鷗外と赤松家』展の続編となる展示を開催しています。是非、ご鑑賞ください。



前回の展示についてはコチラ

### はじめに

森鷗外(※1)は、友人・賀古鶴所(※2)から届いた元妻・赤松登志子の訃報に、下記のように記しています。

嗚呼、是れ我が旧妻なり。於菟<sup>おと</sup>の母なり。赤松登志子は、眉目研好ならずと雖も、色白く丈高き女子なりき。和漢文を読むことを解し、その漢籍の如きは、未見の白文を誦すること流る如くなりき。同棲一年の後、故ありて離別す。

(『鷗外日記』より)

登志子の思い出として、「和漢文の内容をよく理解し、初見の漢文を流れるようにスラスラと読む人であった。」と鷗外は敬服、回想しています。

鷗外の最初の妻として、また、子を持つ母であった赤松登志子の生涯とその子どもたちを、赤松家に残された記録などから回顧します。



赤松登志子 (18 歳)

※1 森鷗外 本名・森林太郎 1862～1922 陸軍医としてドイツへ留学。帰国後、明治22年(1889)に、海軍中将・男爵の赤松則良の長女・登志子と結婚。結婚生活は1年半ほどで離婚に至った。「舞姫」の発表はこの結婚生活の間のことであった。

※2 賀古鶴所 1855～1931 浜松藩出身の医師、歌人。東京大学医学部在籍時、寄宿舎で森鷗外と同室であった。卒業後も交流が続き、明治39年(1906)に2人は短歌会を興している。『舞姫』に登場する主人公の親友・相澤謙吉は賀古鶴所がモデルといわれている。

## 赤松登志子の誕生、学生時代

国立国会図書館『デジタルコレクション』  
赤松則良『日記』より

のり子由りね ありお生 志と松ス

九月十四日 朝 女子初生 登志ト称ス

登志子の両親である赤松則良と貞(旧姓:林)は、明治元年(1868)8月20日に結婚しています。その後則良は、静岡藩沼津兵学校教授を経て明治3年(1870)に新政府(民部省)へ出仕していました。そして翌年、登志子が生まれます。則良は日記にこのことを、左のように記しています。

登志子は、跡見女学校(現在の跡見学園)に在籍していたことが確認されています。跡見女学校は、諸芸術(書画・華道・茶道・箏曲)を教育課程におき、情操教育により人格形成を図り、国漢、和歌を中心とした教養を教育の中核としました。冒頭の「和漢文を読むことを解し、その漢籍の如きは、未見の白文を誦すること流る如く」は、この教育によるものと考えられます。

『跡見花蹊日記』『花号名録』(花の名に因んだ雅号)には、「花蘭 赤松とし」と名前が残されています。

## 鷗外との結婚、於菟の誕生

鷗外と登志子は、明治22年(1889)に婚姻し、後に「鷗外荘」と呼ばれる赤松家の持ち家で暮らします。翌年、長男の於菟が誕生しますが、結婚生活は1年半ほどで離婚に至ります。於菟の手記には以下のように記されています。

「私はともかく明治二十三年九月十三日にこの家で生まれて、十月初旬には(中略)父がその妻と幼児を置いて家を出て弟達とともに新居を求めたので赤松男(男爵)は面目上離婚を請求し父はただちに承諾を与えた。」「私は生後まもなく母の離婚とともに千住の祖父母のもとに移されたが(中略)本郷区森川町の平野甚三という人のところに預けられた。」

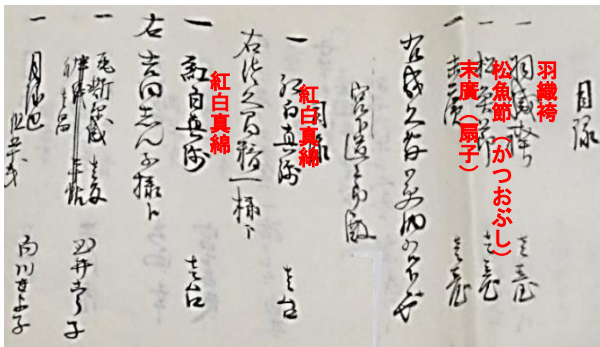
この後、明治25年(1892)に鷗外は「観潮楼」(現在の文京区立森鷗外記念館)を建て、それまで里親に養われていた於菟は森一家のもとに帰っています。



観潮楼前で撮影された写真(明治30年)  
小金井喜美子『鷗外の思い出』より  
後列左端が鷗外、黄色矢印が於菟

## 再婚、美代子の誕生

森鷗外との離婚後、明治26年(1893)11月に海軍法務官の宮下道三郎と再婚した登志子は明治29年(1896)3月4日に長女・美代子を産んでいます。



登志子婚儀備忘(明治26年11月)

赤松則良が記した宮下家や親戚からいただいた  
結納品の目録

その後、明治33年(1900)1月28日に結核の療養中に赤松邸で亡くなりました。28歳のことでした。

美代子は登志子が亡くなる1年程前(明治32年)に赤松家へ預けられ、これ以降、赤松家での生活が続いていました。美代子は、宮下家の別荘地(鎌倉)で大正6年(1917)8月28日に登志子と同じ結核で亡くなっ

ています(享年21)。



# 文化財を守る



## 文化財防火デー in 旧見付学校

文化財防火デーに伴い、1月26日に国の史跡でもある旧見付学校で防火訓練をおこないました。

当日の訓練の様子、火災から文化財を守る備えを紹介します。

### 文化財防火デーとは

文化財防火デーは昭和24年1月26日に現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県）の金堂の一部が火災により焼損したことがきっかけで制定されました。

制定以来、全国で文化財防火運動が展開され、文化財課でも、消防署、旧見付学校のボランティアスタッフの皆さんと共に消防訓練をおこなっています。

### 訓練の様子

当日は、旧見付学校周辺で火災が発生し、延焼の恐れがあるとの想定のもと訓練をおこないました。

119番通報、見学者の避難誘導、ポンプ車、放水銃、水幕ホースによる放水訓練を実施しました。

火災発生からの通報からの一連の行動を、実際に体験しながら確認することで、より理解が深まりました。



はしご車からの放水



水幕ホースによる放水



放水銃

### 火災から文化財を守る備え

旧見付学校では、放水銃のほか、火災報知器、消火器、消火栓などを設置して火災への備えをしています。また、防犯カメラや敷地内の巡回によって安全の確保・点検をおこなっています。

防災への正しい知識と設備を備え、災害から地域の宝である文化財を守り後世へと伝えるべく、保護に取り組んでいきます。

# 旧見付学校 展示情報

旧見付学校では、小学生・中学生による『図工美術作品展』を開催しています。旧見付学校を描いた作品、自分自身をテーマにした作品を展示中です。



展示の様子

画用紙いっぱい描かれた旧見付学校は力作揃いです。ぜひ、ご覧ください。

【日時】開催中～3月9日(日)まで 9:00～16:30

【場所】旧見付学校 入館無料

磐田市見付 2452-1 (駐車場有)

【休館日】2/3(月)、10(月)、12(水)、17(月)、25(火)  
3/3(月)

【問合せ】旧見付学校 TEL0538-32-4511

## 職員リレー コラム

### 学校給食のはじまり

相浦 正裕

みなさんは『学校給食』といえば何を思い出しますか。

私の子どもの頃は、給食といえば、仲間と楽しく食べ、おかわり争奪戦をしたものでした。今でも、記憶に鮮明に残っている学校生活で最も大事な時間だったと感じています。そんな給食にまつわる豆知識を紹介します。

実は「学校給食」には記念日があり、毎年12月24日がその日にあたります。昭和21年(1946)に東京都千代田区立麴町小学校で、日本向けの援助物資(ララ物資)の贈呈式がおこなわれたことで、当時の文部省によって定められた記念日です。当時は、学校給食感謝の日と呼ばれ、東京・神奈川・千葉の3都県で給食を開始しています。

それでは、私たちの住む磐田市ではどうだったのでしょうか。実は、それよりも早い昭和初期には開始していたようです。戦争による空襲の激化と食料難の時期があり、一時期給食を停止していましたが、昭和23年6月より旧磐田市内の北小、中部小、西小、南小、東小(現在の東部小)の5校でスキムミルクの給食を再開しました。昭和26年2月には同5校において完全給食を実施しています。

現在は、1食344円(中学生)で給食を食べられます。市内の3給食センター、1共同調理場、15単独調理場で、栄養教諭を筆頭に給食に携わる職員が、安全安心な給食の提供に努めています。



昭和34年 磐田中部小学校の学校給食記念日の様子

**編集後記** 市HPでは、給食のレシピも掲載しています。今食べたいメニューは『あじのさっぱりしょうがだれ』と『れんこんごはん』です。見ているだけでお腹がすいてきます。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#)

[検索](#)